

運送約款

旅客・荷物運送

博多～比田勝航路の国際航路に国内旅客を
させ混乗運航するジェットfoilに適用

船舶運航事業者

九州郵船株式会社

第1章 総則

(適用範囲)

第1条 この運送約款は、当社が経営する博多～比田勝航路の国際航路に国内旅客を混乗させ運航するジェットフォイルで行う旅客及び手回り品の運送に適用されます。

2 この運送約款に定めのない事項については、法令の規定又は一般の慣習によります。

(定義)

第2条 この運送約款で「旅客」とは、所定の運賃を支払い乗船する客をいいます。

2 この運送約款で「大人」とは、12歳以上の者（小学生（小学校（学校教育法（昭和23年法律第26号）第1条の小学校又は盲学校、聾学校若しくは養護学校の小学部及び同法第83条の各種学校の小学部に類するものをいう。以下同じ。）に修学する児童をいう。以下同じ。）を除く。）をいいます。

3 この運送約款で「小児」とは、12歳未満の者及び12歳以上の小学生をいいます。

4 この運送約款で「手回り品」とは、旅客が自ら携帯又は同伴して船室に持ち込む物であって、次の各号のいずれかに該当するものをいいます。

(1) 3辺の長さの和が158センチメートル以下で、かつ、重量が20キログラム以下の物品 1個

(2) 車いす（旅客が使用するものに限る。）

(3) 身体障害者補助犬（身体障害者補助犬法（平成14年法律第49号）第2条に規定する盲導犬、介助犬及び聴導犬であって、同法第12条の規定による表示をしているものをいう。）及び同法附則第3条の規定により「介助犬」又は「聴導犬」と表示をしているもの

5 この運送約款で「営業所」とは、博多港国際ターミナル、比田勝港国際ターミナルのビートルカウンターをいいます。

第2章 運送の引受け

(運送の引受け)

第3条 当社は、使用船舶の輸送力の範囲内において、運送の申込みの順序により、旅客及び手回り品の運送契約の申込みに応じます。

2 当社は、前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、運送契約の申込みを拒絶し、又は既に締結した運送契約を解除することがあります。

(1) 公的機関が発行した顔写真付き身分証明書（島民カード、運転免許証、パスポート、マイナンバーカードなど）を提示できない旅客（乳幼児含む）

(2) 当社が第5条の規定による措置をとった場合

(3) 旅客が次のいずれかに該当する者である場合

ア 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年法律114号）による一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症若しくは指定感染症（入院を必要とするものに限る。）の患者（擬似症患者及び無症状病原体保有者を含む。）又は新感染症の所見がある者

イ 泥酔者、薬品中毒者その他他の乗船者の迷惑となるおそれのある者

ウ 重傷病者又は小学校に就学していない小児で、付添人のない者

エ 年齢、健康上その他の理由によって生命が危険にさらされ、又は健康が著しく損なわれるおそれのある者

(4) 旅客がこの運送約款の規定に違反する行為を行い、又は行うおそれがある場合

(5) 運送契約の申込みがこの運送約款と異なる運送条件によるものである場合

(6) 当該運送に関し、申込者から特別な負担を求められた場合

(手回り品の持込み等)

第4条 旅客は、手回り品(第2条第4項第2号及び第3号に掲げるものを除く。以下この項において同じ。)を1個に限り、船室に持ち込むことができます。ただし、手回り品の大きさ、乗船する船舶の輸送力等を勘案し、当社が支障がないと認めるときは、1個を超えて申し込みに応じます。

2 当社は、前項の規定にかかわらず、手回り品が次の各号のいずれかに該当する物であるときは、その持込みを拒絶することがあります。

- (1) 臭気を発するもの、不潔なものその他乗船者に迷惑を及ぼすおそれのあるもの
- (2) 銃砲、刀剣、爆発物その他乗船者、他の物品又は船舶に危害を及ぼすおそれのあるもの
- (3) 遺体
- (4) 生動物(第2条第4項第3号に掲げるものを除く。)
- (5) その他運送に不適当と認められるもの

3 当社及び本船の船長は、船舶保安上(本船の不法奪取・管理又は破壊の行為の防止を含みます。)その他の事由により、次の検査をすることがあります。

- (1) 旅客の着衣若しくは着具の上から接触又は金属探知機等の使用による手荷物の検査
- (2) 旅客又は第三者立会いのもとに、開被検査その他の方法による手荷物の検査
又、当社は旅客又は第三者の立会いがない場合であっても、必要に応じて前項に定められた物品を旅客が所持し、又は旅客の手荷物に入っていないかを検査することができます。

4 旅客が前項の検査に応じない場合、又は必要な協力を行わない場合には、当社は手荷物の船内持込みをお断りし、又は運送契約を解除することができます。

5 旅客が第3項の検査により、旅客の手荷物の船内持込みが認められなかったときは、本船の船長は、いつでも旅客の危険と費用負担により陸揚げ又は処分することができます。

6 旅客が第2項のいずれかに該当する手荷物を船内に持込んだことにより、他の旅客・当社若しくは本船又は本船の船長若しくは乗組員等に損害を与えた場合は、その手荷物を持込んだ旅客は、その損害に対し賠償の責任を負うものとします。

(運航の中止等)

第5条 当社は、法令の規定によるほか、次の各号のいずれかに該当する場合は、予定した船便の発航の中止又は使用船舶、発着日時、航行経路若しくは発着港の変更の措置をとることがあります。

- (1) 気象又は海象が船舶の航行に危険を及ぼすおそれがある場合
- (2) 天災、火災、海難、使用船舶の故障その他のやむを得ない事由が発生した場合
- (3) 船員その他運送に携わる者の同盟罷業その他の争議行為が発生した場合
- (4) 乗船者の疾病が発生した場合
- (5) 使用船舶の奪取、破壊等の不法行為が発生した場合
- (6) 官公署の命令又は要求があった場合

第3章 運賃及び料金

(運賃及び料金の額等)

第6条 旅客及び手回り品の運送の運賃及び料金(以下「運賃及び料金」という。)の額並びにその適用方法については、第3項から第6項までに定めるところによるほか、別に地方運輸局長(運輸監理部長を含む。)に届け出たところによります。

2 運賃及び料金には、旅客の食事代金は含まれていません。

3 次の各号のいずれかに該当する小児の運賃及び料金は、無料とします。ただし、指定製の座席を1人で使用する場合の運賃及び料金については、この限りではありません。

- (1) 1歳未満の小児
- (2) 大人に同伴されて乗船する1歳以上の小学校に修学していない小児(団体として乗船する者及び大人1人につき1人を超えて同伴されて乗船する者を除く。)

- 4 第2条第4項第1号に掲げる手回り品の料金は、無料とします。
- 5 個数に関わらず、第2条第4項第1号に掲げる手回り品の規定を超過した場合は、料金を収受します。
- 6 第2条第4項第2号及び第3号に掲げる手回り品の料金は、無料とします。

(運賃及び料金の収受)

第7条 当社は、営業所において所定の運賃及び料金を収受し、これと引き換えに乗船券を発行します。

2 当社は、旅客が船長又は当社の係員の承諾を得て運賃及び料金を支払わずに乗船した場合は、船内において乗船区間に対応する運賃及び料金を申し受け、これと引き換えに補充乗船券を発行します。

(乗船券の効力)

第8条 乗船券は、券面記載の乗船区間、通用期間、指定便（乗船年月日及び便名又は発航時刻が指定されている船便をいう。以下同じ。）に限り、使用することができます。

(運賃及び料金の変更の場合の取扱い)

第9条 運賃及び料金に変更された場合において、その変更前に当社が発行した乗船券は、その通用期間内に限り、有効とします。

(乗船券の通用期間)

第10条 当社は、乗船券の通用期間について、船便指定年月日の記載された乗船券等にあつては、その指定日便とします。

2 疾病その他旅客の一身に関する不可抗力又は当社が第5条の規定による措置をとったことにより、旅客が、乗船することを延期し、又は継続して乗船することができなくなった場合は、当社は、乗船券の未使用区間について、7日間を限度として、その通用期間を延長する取扱いに応じます。

(乗船変更)

第11条 旅客が乗船券の通用期間の終了前（指定便に係るものにあつては、当該指定便の発航前）に券面記載の指定便の変更を申し出た場合には、当社は、1回に限り、当該申出に係る乗船券の発売営業所その他当社が指定する営業所においてその変更の取扱いに応じます。ただし、変更しようとする船便等の輸送力に余裕がない場合は、この限りではありません。

2 前項の規定により当社が変更の取扱いに応じる場合には、当該変更に係る手数料は、無料とし、変更後の乗船区間に対応する運賃及び料金の額と既に収受した運賃及び料金の額との間に差額が生じるときは、当社は、不足額があればこれを申し受け、過剰額があればこれを払い戻します。

(指定便発航後の乗船変更の特例)

第12条 旅客が指定便に係る乗船券について当該指定便の発航後に乗船船便の変更を申し出た場合には、当社は、当該乗船券の券面記載の乗船日に発航する同一区間の他の船便の輸送力に余裕がある場合に限り、当該乗船券による2等船室への乗船変更の取扱いに応じます。但し、過剰額の払い戻しには応じません。

(乗船券の紛失)

第13条 旅客が乗船券を紛失したときは、当社は、改めて運賃及び料金を申し受け、これと引き換えに乗船券を発行します。この場合には、当社は、その旨の証明書を発行します。ただし、乗船券を所持して乗船した事実が明白である場合には、この規定を適用しないことがあります。

2 旅客は、紛失した乗船券を発見したときは、その通用期間の経過後1年以内に限り、前項の証明

書を添えて当社に運賃及び料金の払戻しを請求することができます。

(不正乗船等)

第14条 旅客が次の各号のいずれかに該当する行為をしたときは、当社は、運賃及び料金のほかにこれらの2倍に相当する額の増運賃及び増料金をあわせて申し受けることがあります。

- (1) 船長又は当社の係員の承諾を得ないで、乗船券を持たずに乗船すること。
- (2) 無効の乗船券で乗船すること。
- (3) 記載事項が改変された乗船券で乗船すること。
- (4) 当該乗船券を使用することができる者以外の者がこれを使用して乗船すること。
- (5) 当社の係員が乗船券の呈示を求め、又は運賃及び料金の支払いを請求してもこれに応じないこと。
- (6) 不正の申告によって、運賃及び料金の割引を受け、又は運賃及び料金を支払わずに乗船すること。
- (7) 乗船券を回収する際にその引渡しを拒否すること。

(払戻し及び払戻し手数料)

第15条 当社は、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該乗船券の発売営業所その他当社が指定する営業所において、それぞれ当該各号に定める額の運賃及び料金を払い戻します。

- (1) 旅客が、入船前の乗船券について、その通用期間内に払戻しの請求をした場合(次号及び第4号に該当する場合を除く。) 券面記載金額(割引がされているときは、割引後の金額。以下同じ。)
- (2) 死亡、疾病その他旅客の一身に関する不可抗力により、旅客が、乗船することを取り止め、又は継続して乗船することができなくなったことを証明した場合において、乗船券の通用期間の経過後30日以内に払戻しの請求をしたとき。 券面記載金額と既使用区間に対応する運賃及び料金の額との差額
- (3) 特別急行料金又は急行料金を収受する船便(以下「急行便」という。)が、当該急行便の所定の所要時間以内の時間で当社が定める時間以上遅延して到着した場合において、当該急行便の旅客が払戻しの請求をしたとき。 収受した特別急行料金又は急行料金の額
- (4) 当社が第5条の規定による措置をとった場合において、旅客が運送契約を解除し、払戻しの請求をしたとき。 券面記載金額と既使用区間に対応する運賃及び料金の額との差額
- (5) 当社が第3条第2項の規定により運送契約を解除した場合 券面記載金額と既使用区間に対応する運賃及び料金の額との差額
- (6) 旅客が第13条第2項の規定による払戻しの請求をした場合 券面記載金額

2 当社は、前項の規定により運賃及び料金の払戻しをするときは、次の各号に定める区分に応じ、それぞれ当該各号に定める額の範囲内において当社が定める額の手数料を申し受けます。ただし、同項第3号、第4号及び第5号(第3条第2項第2号に係る場合に限る。)に係る払戻しについては、この限りではありません。

- (1) 前項第1号、第2号、第5号(第3条第2項第2号に係る場合を除く。)及び第6号に係る払戻し 100円
- (2) 前項第2号に係る払戻し
 - ア 発航する日の7日前までの請求に係る払戻し 100円
 - イ 発航する日の前々日までの請求に係る払戻し 券面記載金額の1割に相当する額(その額が100円に満たないときは、100円)
 - ウ 発航時刻までの請求に係る払戻し 券面記載金額の2割に相当する額(その額が100円に満たないときは、100円)

第4章 旅客の義務

(旅客の禁止行為等)

第16条 旅客は、次に掲げる行為をしてはいけません。

- (1) みだりに船舶の操舵設備その他の運航のための設備又は船舶に係る旅客乗降用可動施設の作動装置を操作すること。
- (2) みだりに船舶内の立入りを禁止された場所に立ち入ること。
- (3) 船舶内において喫煙すること。
- (4) みだりに消火器、非常用警報装置、救命胴衣その他の非常の際に使用すべき装置又は器具を操作し、又は移動すること。
- (5) みだりにタラップ、しゃ断機その他乗船者の乗下船又は転落防止のための設備を操作し、又は移動すること。
- (6) みだりに乗船者の乗下船の方法を示す標識その他乗船者の安全のために掲げられた標識又は掲示物を損傷し、又は移動すること。
- (7) 石、ガラスびん、金属片その他船舶又は船舶上の人若しくは搭載物を損傷するおそれのある物件を船舶に向かって投げ、又は発射すること。
- (8) 海中投棄を禁止された物品を船舶から海中に投棄すること。
- (9)他の乗船者に不快感を与え、又は迷惑をかけること。
- (10)船内の秩序若しくは風紀を乱し、又は衛生に害のある行為をすること。
- (11)翼走航行中にシートベルトを装着しないこと。(真に止むを得ない場合を除く。)

2 旅客は、乗下船その他船内における行動に関し、船長又は当社の係員が輸送の安全確保と船内秩序の維持のために行う職務上の指示に従わなければなりません。

3 船長は、前項の指示に従わない旅客に対し、下船を命じることがあります。

(手回り品の保管)

第17条 旅客は、船室に持ち込んだ手回り品を自己の責任において保管しなければなりません。

第5章 賠償責任

(当社の賠償責任)

第18条 当社は、旅客が、船長又は当社の係員の指示に従い、乗船港の乗降施設（改札口がある場合にあっては、改札口。以下同じ。）に達した時から下船港の乗降施設を離れた時までの間に、その生命又は身体を害した場合は、これにより生じた損害について賠償する責任を負います。

2 前項の規定は、次の各号のいずれかに該当する場合は、適用しません。

- (1) 当社が、船舶に構造上の欠陥及び機能の障害がなかったこと並びに当社及びその使用人が当該損害を防止するために必要な措置をとったこと又は不可抗力などの理由によりその措置をとることができなかったことを証明した場合
- (2) 当社が、旅客又は第三者の故意若しくは過失により、又は旅客がこの運送約款を守らなかったことにより当該損害が生じたことを証明した場合

3 当社は、手回り品その他旅客の保管する物品の滅失、き損等により生じた損害については、当社又はその使用人に過失があったことが証明された場合に限り、これを賠償する責任を負います。

4 当社が第5条の規定による措置をとったことにより生じた損害については、第1項又は前項の規定により当社が責任を負う場合を除き、当社は、これを賠償する責任を負いません。

(旅客に対する賠償請求)

第19条 旅客が、その故意若しくは過失により、又はこの運送約款を守らなかったことにより当社に損害を与えた場合は、当社は、当該旅客に対し、その損害の賠償を求めることがあります。